知ってるようで知らない

日本古来の自然を守ろう！

Let's save our Japanese Old Nature

オオキンケイギクとそれを取り巻く環境の巻

★　はじめに

こんにちは、中部技術事務所環境共生課です。今回は環境共生課の広報誌を掲載します。今後は、定期的に発行していきますのでよろしくお願いいたします。

今回のテーマは、*河川の堤防に自生している特定外来植物（オオキンケイギク）*についてです。

オオキンケイギク（出典：国土交通省）

群生するオオキンケイギク

★　特定外来生物って何？

特定外来生物とは、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼす恐れがあるものの中から指定されています。そのため、その**飼育、栽培、保管運搬、販売、譲渡、輸入、野外へ放つ、ことが原則禁止されています。**

★　違反したらどうなるの？

特定外来生物は、たとえば野外に放たれて定着してしまった場合、人の生命・身体、農林水産業、生態系に対してとてもおおきな影響を与えることが考えられます。場合によっては取り返しのつかないような事態を引き起こすことも考えられますので、**違反内容によっては非常に重い罰則が課せられてしまうのです。**（参考：環境省 HP より抜粋）

★　ところで、どんな特定外来生物が自生しているの？

河川のほとんど堤防では、**オオキンケイギク（キク科）が自生**していることが確認されていますが、これ以外にも自生等している可能性もあるかもしれません。ここでは、**オオキンケイギクの特徴、駆除方法等**について掲載します。

オオキンケイギグの種

●　特　徴

花は５月～８月に密集して咲き、**花びらの先が鶏冠状にギザギザ**になっています。

茎は高さ３０～70cm で**かたまって生えています。**

茎葉は対になって生え、根元から出る葉には長い柄があり、**葉の表裏とも粗い毛**があります。

地下茎はよく発達し、そこから繁殖します。

種子の周囲に円形状の羽があり、**風に乗って飛散**します。

オオキンケイギグの根

● 生　態

５月～８月に黄色の花が密集して咲きます。堤防の草刈りで刈られた後は、数は少ないながら二番草が咲きます。

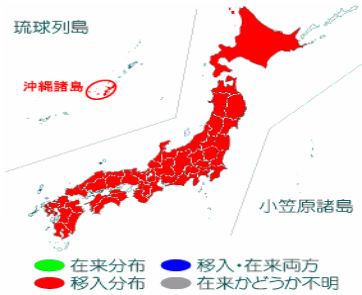
８月中旬から実をつけ、羽のある種子を落とすが飛翔能力は高くありません。地下茎が発達し、そこから束になって茎が伸びるので、地上部分を刈り取っても同じ場所に生えてきます。

● 拡散の原因

明治時代に園芸植物として導入され、美しくて強いことから「ワイルドフラワー」とよばれる緑化の材料として多用され、全国に広がったようです。栽培する人も多く、花が美しく目立つので、草刈りの際にわざわざ刈り残されるなどして、雑草の中でも特別扱いされていたそうです。

● 国内移入分布

右図のとおり、**沖縄を含むほぼ全国に移入**されています。



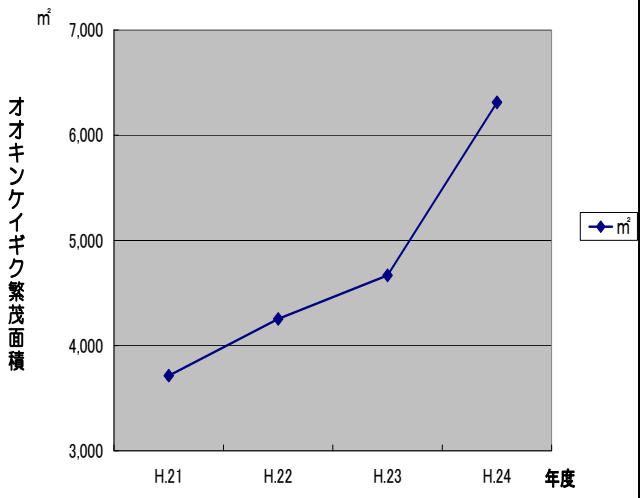
資料提供：国立環境研究所 HP

★ どれ位繁茂しているの？

木曽川にある河川環境楽園では、ボランティアを募って特定外来植物であるオオキンケイギクを根元から引き抜き、駆除を実施。また一部の出張所においては、堤防の除草を行う前に根元から引き抜き駆除を行っています。

しかし、図―１に示すように、木曽川上流河川事務所揖斐川第一出張所管内では、年々繁殖面積が増加しています。特に H24 年度では、H23 年度に比べ**約 1.4 倍**も増加しています。原因としては、①　花が咲き、種が形成される時期に根を残して除草が行われる。②　種が輸送中にまぎれ、落ちて自生する。③　根から駆除しても多年草で旺盛な繁殖力のため、効果的な駆除ができていない　等が考えられます。

図－１　年度別オオキンケイギク繁茂状況（揖斐一管内）



資料提供：木曽川上流河川事務所揖斐川第一出張所

★ ではどうすれば駆除できるの！

花期には、根元を持って引き抜き、ビニール袋に入れて焼却処分するか枯死させることが必要です。

種子をつけた時期は、種子を拡散させないようにビニール袋に入れて焼却処分が必要です。

オオキンケイギクは地下茎で増えるため、**地上部分を刈り取っただけでは生え続けます。**数回に渡って地上部分を刈り続ければ、地下茎を弱らせるとの文献もありますが、それも生えてきたら刈るという作業を数回続けるという手間が必要です。

しかし、なかなか**オオキンケイギクを根元から引き抜くという地道で根気強い作業がまだまだ浸透していません。**是非、この方法で駆除を進めることが、オオキンケイギク浸食の防止に繋がっていくと思いますので、皆様のご協力をお願いいたします。

国土交通省中部地方整備局中部技術事務所　環境共生課
お問い合わせ先　　TEL　（０５２）７２３－５７６９